

# 大矢和憲の社会科（第4学年）研究計画

## 1 本研究の位置付け

私は、中学年社会科において、身近な地域の**社会的事象を、自分の生活と関連付けてとらえる子ども**を目指す。社会的事象と自分の生活との関係に気付き、自分の生活とのかかわりという視点で社会的事象をとらえた子どもは、中学年社会科の態度目標である地域社会の一員としての自覚や、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができると考える。学習指導要領の改訂では、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことが重視されている。この基礎を培うためには、社会的事象の事実をとらえるだけでなく、自分の生活と関連付けてとらえることが大切である。

これまでも、社会的事象を自分の生活に関連付けてとらえさせようと、学校や家庭での生活の様子を調べさせたり、人々の工夫や努力に着目させたりするなどして学習問題をつくらせ、社会的事象を追求させてきた。しかし、社会的事象にかかわる人々の工夫や努力が分かっても、その工夫や努力が自分の生活にとってどのような影響を及ぼしているのかや、自分が社会的事象にどのようにかかわっていけばよいのかなどと、社会的事象を自分の生活と関連付けてとらえることができない子どもの姿が多く見られた。

その原因は、子どもが社会的事象について問いをもち、事実を追求する場面で、採り上げた社会的事象にかかわる自分の生活経験や実態をもち出しながら、社会的事象の事実を追求できていなかったからである。そのため、社会的事象と自分の生活との関係に気付くことができず、社会的事象を自分の生活と関連付けてとらえることができなかったのである。

そこで私は、社会的事象について問いをもった子どもが、自分の生活を想起し、自分の生活経験や実態をもち出しながら社会的事象の事実を追求していく授業を構想する。

まず、身近な地域の社会的事象について、子どもの既有的認識との間にずれを生む教材を提示する。子どもは、社会的事象について疑問をもち、学習問題を設定して、社会的事象の事実を追求し始める。

次に、考えを方向付ける資料を提示し、学習問題について考えさせる。子どもは、**推量する思考の方法**を使って、自分の生活経験と資料から気付いたことをもち出し、学習問題について予想を始める。

さらに、採り上げた社会的事象にかかわる子どもの生活場面や実態が見える資料を提示して、自分の生活を想起させる。子どもは、資料を見て自分の生活を想起し、**推量する思考の方法**を使って、採り上げた社会的事象に関係する自分の生活経験や実態と、社会的事象の事実とをもち出す。そのような子どもに、学習問題についてどのように考えるかと問う。ここでは、話し合いを通して、社会的事象の事実について学級全体の仮説を立てさせる。仮説を立てた子どもは、本当にそうのかどうかと、仮説を確かめたいくなる。

そこで、社会的事象についての事実を確かめさせることにより、子どもは、**関係付ける思考の方法**を使って、自分の生活を想起してもち出した生活経験や実態と、社会的事象の事実とを結び付けて学習問題を解決する。このような学習過程をたどることにより、子どもは、身近な地域の社会的事象を、自分の生活と関連付けてとらえる子どもになる。

## 2 主張する働き掛け

子どもはこれまでに、身近な地域の社会的事象について、その仕組みや事実を調べてきている。しかし、まだ、これから採り上げる社会的事象を、自分の生活と関連付けてとらえていない。

### 働き掛け 1

**子どもの既有的認識との間にずれを生む教材を提示し、疑問を焦点化して、学習問題を設定させる。**

これまでの学習で身に付けた社会的事象に対する認識との間にずれを生む教材を提示する。教材は、未知の事実を含んだ教材、既有的認識と相反する事実を含んだ教材、予想を超える違いを含んだ教材などである。子どもは、思っていたことが当てはまらなかったり、これまでの認識ではうま

く言えなくなったりして、どうしてなのかや、何のためなのかなどと、社会的事象について疑問をもつ。そこで、子どもの驚きや疑問を焦点化し、学習問題を設定させる。学習問題に対して、子どもは、既有的認識や教材を基にして考え始める。

#### 働き掛け 2

**考えを方向付ける資料提示や発問を行い、学習問題に対する考えを記述させる。**

既有的認識や教材を基にして考え始めた子どもに、考えを方向付ける資料提示や発問を行う。すると、子どもは、**推量する思考の方法**を使って、自分の生活場面や資料を根拠に、自分の生活経験と、資料から気付いたことをもち出して、学習問題について考えるようになる。そこで、学習問題に対する考えを記述させる。しかし、子どもはまだ、自分の立場で自分のこととして学習問題について考えていない。

#### 働き掛け 3

**子どもの生活場面や実態が見える資料を提示し、学習問題に対する考えを交流させ、どのような仮説が考えられるかを問う。**

自分の立場で自分のこととして考えていない子どもに、採り上げた社会的事象にかかわる子どもの生活場面や実態が見える資料を提示する。子どもは、資料を見て自分の生活を想起し、**推量する思考の方法**を使って、採り上げた社会的事象に関係する自分の生活経験や実態と、社会的事象の事実とをもち出す。こうして、社会的事象と自分の生活との関係に気付き始めた子どもに、学習問題についてどのように考えるかを問い、考えを交流させる。この時、この考えについてどう思うかや、これでいいかどうかと問いながら、子どもに評価・判断させることを通して、学習問題についての仮説を考えさせる。最終的な仮説を考えた子どもは、本当はどうかと、自分たちが考えた仮説を確かめようとする。

#### 働き掛け 4

**仮説を確かめるための資料やゲストティーチャーを提示し、分かったことを問う。**

自分たちが考えた仮説の正否を確かめようとしている子どもに、仮説を確かめるための資料やゲストティーチャーを提示する。子どもは、資料やゲストティーチャーの話から、仮説を確かめるために必要な情報を取り出し、仮説を検証する。このとき、子どもは、**関係付ける思考の方法**を使って、自分の生活を想起してもち出した生活経験や実態と、社会的事象の事実とを結び付け、社会的事象を、自分の生活と関連付けてとらえる子どもになる。

### 3 検証

#### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「思考の方法」を使って、自分の生活経験や実態と、社会的事象の事実をもち出させることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、社会的事象を自分の生活と関連付けてとらえることができたか。

#### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け 3 の後で、推量する思考の方法を使って、自分の生活経験や実態と、社会的事象の事実とをもち出して考えているかどうかを、ワークシートの記述や発言から検証する。
- ② 働き掛け 4 の後で、身近な地域の社会的事象を自分の生活と関連付けてとらえているかどうかを、ワークシートの記述から検証する。

### 4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(7月) 「わたしたちのくらしとごみ」(14時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「安全で安心なまちづくり」(16時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「未来への架け橋」(10時間)